



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理部長 兼 経営企画室担当 (氏名) 森山 勇二

TEL 092-724-4925

四半期報告書提出予定日 2023年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,927	6.3	78		77		127	
2022年3月期第3四半期	6,516	0.7	386	13.1	382	12.4	213	10.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 77百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 216百万円 ( 9.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	21.02	
2022年3月期第3四半期	34.95	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	9,361	5,345	57.1	882.00
2022年3月期	9,179	5,530	60.2	915.61

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,345百万円 2022年3月期 5,530百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		24.00	24.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,094	6.5	30	91.5	30	91.9	44		7.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	6,257,230 株	2022年3月期	6,257,230 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	196,658 株	2022年3月期	216,891 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	6,050,448 株	2022年3月期3Q	6,111,979 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日)におけるわが国経済は、新たな変異株による新型コロナウイルス感染症の再拡大はあったものの、行動制限は順次緩和され、景気に緩やかな回復の兆しが見られました。一方、ウクライナ情勢の長期化、また原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、急激な円安の影響による物価上昇等により、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界では原材料費の高騰等に伴うさまざまな商品の値上げ拡大による影響が大きく、節約へのニーズが強まる一方、外食業界におきましては、行動制限も緩和され、回復傾向ではありますが、感染の再拡大等の懸念もあり、経営環境は厳しいものとなっております。

このような状況のもと、当社グループは、ファンベース経営のさらなる強化、魅力のある商品開発、価値訴求に重点を置いた販売体制の構築を行い、当社の強みを伸ばし、さらなるブランド価値向上に努めてまいりました。

食品事業では商品価格ではなく、商品価値を訴求する営業施策を引き続き行うとともに、4月に行った価格改定の浸透に注力してまいりました。しかしながら、物価高を背景とした消費マインド低下に伴う需要の減退等により、食品事業では減収となりました。一方、レストラン事業では、ウィズコロナを見据え、新メニューの積極的な投入やディナータイム強化施策を行ってまいりました。行動制限の緩和やさまざまな施策を行ったこと等により、レストラン事業の売上は好調に推移し、グループ全体では増収となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は69億27百万円(前年同期比6.3%増)となりました。

利益面では、レストラン事業の損失が大幅に改善したものの、食品事業の売上高の減少及び原材料費の高騰が想定以上に大きく影響し、営業損失は78百万円(前年同期は3億86百万円の利益)、経常損失は77百万円(前年同期は3億82百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は、特別損失として、レストラン店舗の減損損失61百万円を計上したこと等により、1億27百万円(前年同期は2億13百万円の利益)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ①食品事業

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、ブランド価値向上に重きをおいた営業施策を行うとともに、4月に行った価格改定の定着・浸透を図ってまいりました。発売から42年の主力商品「ピエトロドレッシング和風しょうゆ」が、2023年前半にも累計出荷本数3億本に達することを記念したキャンペーンを開始したほか、商品戦略として、健康志向の商品ラインナップの強化を図るため、通常のドレッシングよりカロリーや油分をカットした「ピエトロドレッシンググリーン和風しょうゆ」をさらにおいしくリニューアルするとともに、秋冬期間限定の「ピエトロドレッシング黄金しょうが」を新たに販売する等、ドレッシングカテゴリーの活性化を図りました。しかしながら、市況の悪化も重なり、前年同期の販売額を下回りました。

第2の柱であるパスタ関連カテゴリーでは、第52回ジャパンフードセレクション(パスタソース部門)においてグランプリを受賞した、おうちパスタシリーズ「おうちパスタ ペペロンチーノ」と「おうちパスタ バジル」を中心に、インスタグラムを活用したキャンペーンを実施する等、新規導入強化を行ってまいりました。また手軽で本格的なレトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」では“レストランの味をご家庭で”の強みを活かした提案を行い、レストランの人気メニューを商品化した「洋麺屋ピエトロ 絶望スパゲティ」、昨年リニューアルを行った「洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」の拡販に注力いたしました。

さらに、新しく「洋麺屋ピエトロ 蟹と蟹みそのスパゲティ」「洋麺屋ピエトロ なす辛(リニューアル)」を発売し、ラインナップの充実を図ったことで、レトルトパスタソースの販売は堅調に推移いたしました。価格改定の影響で「おうちパスタシリーズ」の販売額が前年同期を下回る結果となりました。

成長事業である冷凍商品カテゴリーでは、ライフスタイルの変化等でニーズが拡大している冷凍食品市場に向け、自宅で本格レストランの味が楽しめる高付加価値商品として、冷凍ピザ、パスタ、ドリアの拡販強化を行ってまいりました。また、さらなる売上拡大のため家庭用冷食として人気が高い「グラタン」を新規投入いたしました。質販店での好調を受け、量販店にも定番配荷が進んだこと等により、前年同期の販売額を大きく上回りました。

育成事業であるスープカテゴリーでは、コロナ禍で中断していた直販店での試食を再開する等、お客様に寄り添った接客を行うことにより、さらなる販売強化に取り組んでまいりました。また、お客様に商品を直接手にとっていただける機会を増やすため、新規出店のほか、期間限定のPOPUP店舗の出店も継続的に行いました。季節やイベントに応じたギフトボックスの導入を強化したことで、「プチギフト」「パーソナルギフト」を捉え、順調に販売数量を伸ばしました。

新規出店につきましては、以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2022年4月	PIETRO A DAY 浦和パルコ店

また、新カテゴリーのフライドオニオン「PUTFUTTE (パットフutte)」シリーズは、店頭化推進とレストランのテーブルに常備して自由にお試しいただく“テーブルマーケティング”の取り組みを行ったことで、レストラン店頭物販商品人気No.1の商品となりました。

さらに通信販売では、通常のギフト販売のほか、自社サイトやアプリ、その他モール系のEC売上の強化を行うとともに、冷凍商品の定期便の開始やライブコマースを利用した、お客様との双方向性の商品紹介による顧客獲得等、新しい取り組みも行いました。

このほか、株式会社タニタとのコラボ商品として、毎日の生活に健康習慣をプラスする「ピエトロ×TANITA pietro daily plus」シリーズのドレッシング、スープ、フライドオニオン各2品、合計6品を発売しました。

しかしながら消費マインド低下に伴う需要の減退、競争の激化による主力ドレッシングの売上減の影響が大きく、食品事業全体では減収となりました。

利益面では、生産性の向上に努めたものの、売上の減少と、想定を超えるの食用油等の主原料価格の高騰の影響が大きく減益となりました。

以上の結果、セグメント売上高は46億65百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント利益は11億28百万円（前年同期比28.0%減）となりました。

## ②レストラン事業

レストラン事業では、ウィズコロナを見据え、高付加価値かつ、お客様に楽しんでいただける新メニューを投入する等のメニュー戦略を行うとともに、エリアマーケティング機能の強化として、未出店エリアへの新規出店を積極的に行っていました。また、質の高いサービスを追求するため、スタッフ研修のさらなる強化やモチベーションアップのための働く環境改善等を行うとともに、ディナータイム強化施策として、サイドメニューの充実を図る等、顧客満足度向上のための施策を行ったことで、顧客単価、来客数ともに上昇いたしました。また新規出店効果もあり、前年同期の売上を大きく上回りました。さらに、テイクアウトメニューの拡充やデリバリー、レストランでのテーブルマーケティングによる店頭での物販強化にも取り組んでまいりました。

利益面におきましては、原材料費の高騰への対策として、グランドメニューの内容や価格の見直しを行ったことで、原価率の改善も進み、赤字幅は大きく縮小したものの、店舗閉店に伴う店舗閉鎖損失の計上や海外子会社の損失等により、黒字転換には至りませんでした。

新規出店、リニューアルオープンにつきましては以下のとおりです。

出店・リニューアル時期	店 舗 名
2022年4月	ピエトロ鹿児島センテラス店
2022年4月※リニューアル	PIETRO MIOMIO 天神地下街店
2022年4月	ピエトロ イオンモール浦和美園店
2022年4月	ピエトロTHE OUTLETS KITAKYUSHU店

以上の結果、セグメント売上高は21億43百万円（前年同期比47.1%増）、セグメント損失は52百万円（前年同期は1億67百万円の損失）となりました。

## ③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビル等の賃貸）事業におきましては、売上高は1億18百万円（前年同期比1.3%減）、セグメント利益は51百万円（前年同期比12.7%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1億81百万円増加し、93億61百万円となりました。これは主に売掛金が2億55百万円増加する一方、有形固定資産が1億41百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ3億67百万円増加し、40億16百万円となりました。これは長期借入金（1年内含む）が84百万円、未払法人税等が80百万円減少する一方、買掛金が2億4百万円、未払金が1億86百万円がそれぞれ増加したこと等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億85百万円減少し、53億45百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分34百万円並びに為替換算調整勘定が48百万円増加した一方、前期決算の剰余金の配当1億44百万円及び親会社株主に帰属する四半期純損失1億27百万円の計上により、利益剰余金が2億72百万円減少したこと等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年11月10日に公表の「2023年3月期 第2四半期決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,257,899	1,230,562
預け金	33,432	75,168
売掛金	1,338,915	1,594,538
商品及び製品	177,366	177,172
仕掛品	15,574	14,836
原材料及び貯蔵品	124,794	156,944
その他	136,134	151,439
貸倒引当金	△36	△53
流動資産合計	3,084,081	3,400,608
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,511,705	2,473,845
土地	2,020,401	2,020,401
その他(純額)	765,651	662,263
有形固定資産合計	5,297,758	5,156,511
無形固定資産	115,276	96,969
投資その他の資産		
敷金及び保証金	389,368	412,212
保険積立金	80,732	76,893
その他	231,910	237,712
貸倒引当金	△19,516	△19,437
投資その他の資産合計	682,495	707,380
固定資産合計	6,095,530	5,960,861
資産合計	9,179,612	9,361,469

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	471,238	675,681
短期借入金	1,350,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	120,794	120,000
未払金	400,413	586,914
未払法人税等	86,037	5,943
契約負債	14,806	51,052
賞与引当金	66,449	36,311
その他	268,270	388,495
流動負債合計	2,778,010	3,214,399
固定負債		
長期借入金	256,667	173,334
リース債務	112,311	86,533
長期未払金	156,925	156,925
退職給付に係る負債	147,814	164,744
資産除去債務	98,594	113,329
その他	98,701	106,806
固定負債合計	871,014	801,672
負債合計	3,649,025	4,016,071
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,042,389	1,042,389
資本剰余金	1,076,152	1,078,422
利益剰余金	3,783,364	3,511,209
自己株式	△371,554	△336,898
株主資本合計	5,530,352	5,295,123
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△947	315
為替換算調整勘定	1,181	49,958
その他の包括利益累計額合計	234	50,274
純資産合計	5,530,586	5,345,397
負債純資産合計	9,179,612	9,361,469

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	6,516,133	6,927,770
売上原価	3,024,044	3,405,301
売上総利益	3,492,088	3,522,468
販売費及び一般管理費	3,105,303	3,600,969
営業利益又は営業損失(△)	386,784	△78,501
営業外収益		
受取利息	275	228
受取配当金	200	240
為替差益	186	4,270
その他	3,837	3,382
営業外収益合計	4,500	8,121
営業外費用		
支払利息	5,679	5,295
シンジケートローン手数料	1,887	1,892
その他	855	269
営業外費用合計	8,422	7,457
経常利益又は経常損失(△)	382,862	△77,838
特別利益		
固定資産売却益	—	3,798
保険解約返戻金	14,023	7,413
受取保険金	—	10,440
特別利益合計	14,023	21,653
特別損失		
固定資産除却損	32,960	216
固定資産圧縮損	—	7,178
減損損失	—	61,596
その他	115	—
特別損失合計	33,076	68,991
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	363,809	△125,176
法人税、住民税及び事業税	122,927	30,891
過年度法人税等戻入額	—	△20,625
法人税等調整額	27,246	△8,255
法人税等合計	150,173	2,010
四半期純利益又は四半期純損失(△)	213,635	△127,187
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	213,636	△127,187



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	213,635	△127,187
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△293	1,263
為替換算調整勘定	2,899	48,777
その他の包括利益合計	2,605	50,040
四半期包括利益	216,240	△77,146
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	216,242	△77,146
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,938,086	1,457,902	2,291	6,398,279	—	6,398,279
その他の収益	—	—	117,853	117,853	—	117,853
(1) 外部顧客への売上高	4,938,086	1,457,902	120,145	6,516,133	—	6,516,133
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,938,086	1,457,902	120,145	6,516,133	—	6,516,133
セグメント利益 又は損失(△)	1,566,480	△167,666	59,171	1,457,985	△1,071,200	386,784

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,071,200千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,665,347	2,143,789	2,046	6,811,183	—	6,811,182
その他の収益	—	—	116,586	116,586	—	116,586
(1) 外部顧客への売上高	4,665,347	2,143,789	118,632	6,927,770	—	6,927,770
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,665,347	2,143,789	118,632	6,927,770	—	6,927,770
セグメント利益 又は損失(△)	1,128,226	△52,583	51,649	1,127,292	△1,205,794	△78,501

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,205,794千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては61,596千円であります。